

音楽を通して自閉症への理解を

音楽の演奏を通じて、自閉症やさまざまな障害のある人たちへの理解を深めてもらおうという催しが、水戸市で開かれました。

この催しは、県内でおよそ250人の会員がいる茨城県自閉症協会が、障害のある人たちへの理解を深めてもらおうと主催しました。県内各地や福島県から自閉症をはじめ知的障害のある人たちなどおよそ200人が参加し、音楽の演奏を発表しました。

参加者はグループごとにステージに立つと、日ごろ練習してきた楽器の演奏や歌声を表現豊かに披露しました。

このうち茨城県自閉症協会のメンバーは人気グループ「グリーン」のヒット曲、「キセキ」にのせて、ラテン音楽で使われる太鼓やベルなどの打楽器を演奏しました。

演奏には観客も飛び入りで参加し、会場が一体となって盛り上がりました。

茨城県自閉症協会の仲澤隆子事務局長は「力を合わせた演奏を見てもらうことで障害を持っていても地域の中にも溶け込むことができるということを広めていきたいです」と話していました。

04月11日 20時57分